



日曜日



20260714



エリー





# 目次

|          |   |
|----------|---|
| 本文 ..... | 1 |
|----------|---|



## 本文

目に映っていても、意味を知らないと、理解しているとは言えない。そんなわたしの失敗談。

いつも通り、のんきそうに朝食を作る母に、わたしはお小遣いの追加を要求した。

大好きな漫画の資料集が出るからだ。単行本と同じ価格だが、急な出費に対応できる貯金はない。

母は不敵な微笑みで言い放った。

「それなら、日曜の朝食は英美ちゃんに作ってもらおうかしら。朝7時に3人分、出来立てを食べさせて」

「ホント？ ヤッター！！」

「できるの？」

「楽勝よ！」

当日の朝、わたしはいつも通り6時半に起きた。母と違って洗濯もしないのだから、同じ時間でよいと考えたからだ。

まず、主役はパンなんだから、食パンを冷凍庫から出して、バターを塗り、トースターで焼く。

次にお湯を沸かしている間に、インスタントコーヒーをカップに入れて、熱湯で溶かし、牛乳を入れる。

それから、熱々の目玉焼きを作る。5分もあればできるはず。

まだ6時50分。完璧な計画だわ。

冷たいままのフライパンに、油も引かずに卵を落とす。そして強火でガンガン加熱した。

あれ？

5分経っても黄身も白身も固まらない。おまけになんか、焦げ臭い。

どうしよう。どうしたら。ああ。

焦げた目玉焼きが完成した時、トーストは冷め、コーヒーもぬるくなっていた。

「英美ちゃん、これはできたと言える？ 言えない？」

資料集は欲しいよ。欲しいけど.....。

「言えないです。来週も挑戦したいので、お母さん、教えてください」

わたしは勢いよく頭を下げた。

「いいよ」

顔を上げると父も母も、笑いながら黒こげの目玉焼きを食べていた。

---

日曜日 20260714

---

著 者 ELYE

制 作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---